

未来を守るために

宮崎・東諸県支会代表 阪元 大悟

私はこれまで選挙について深く考える時間がありませんでした。というより、正直な話、興味がなかったというのが本音です。学校の授業では選挙の話はあまり出ないし、ニュースでも投票時期にしか報道されないし、一番は選挙って何が楽しいのかな？と思ってしまう自分さえもいました。しかし、選挙の対象年齢が20歳から18歳に引き下げられた事により、高校2年生である私は、必然的に選挙について考えないといけない状況になりました。しかも、私の地元綾町では2023年4月に町長選挙も控えており、ますます他人事では無くなってきました。そして、今回のわけもんの主張の意見発表の依頼までも飛びこんできて……。これを機に私はよし。良い機会だ！と思い、選挙について、自分なりに深く考えてみる事にしました。

まず、最近行われた宮崎県知事選挙について調べてみると、投票率が56.69%で半分近くの人達が投票に参加しておらず、その中でも2~30代の若者達が半分以上参加していないということがわかりました。若者が投票に行かない理由を調べていくと、今の若者は政治の知識がない人が多いことや、日本での暮らしに対しての不満や危機感がないことなどが原因だと挙げられておりました。前回の宮崎県知事選挙に比べ、投票率が上がったとはいえ、まだまだ低いのが現状です。他県の知事選挙の投票率の様子もあまり宮崎県と変わりません。ある県に関しては投票率が25%弱という県すらあるようです。私なりに分析すると、行かなかった人達は自分には関係ないや。選挙に行くメリットがないと考えているのではないのでしょうか。

次に日本ではなく、海外に目を向けてみました。海外の投票率を見てみると、欧米のベルギーでは投票率が約90%以上もの高い投票率となっていました。ベルギーでは1893年から義務投票制という制度をひいており、投票を怠ると、初回で620円~約1240円の罰金、何度も怠ると更に高額になるという制度があるようです。それらを避けるために、高い投票率になっているのでしょう。また、同じく欧米のスウェーデンでは幼少期からの主権者教育が徹底されておりました。小学校の教科書から投票に行くことや自分の意見を社会に反映させるために集会やデモを行うことが大切だと書かれています。また、学校のあらゆる場面でも投票を行うことがたくさんあるようです。例えば、遊具を購入する際には、全校児童で投票して、購入する遊具を決めるようです。また、高校生になると、国会

に集まり、大臣と国の課題について議論します。要するに、小さい時から選挙や国政について考えさせる教育がなされている事で、若者の政治への関心が高まり、その影響で投票率が高いことに繋がっているのでしょう。海外では様々な工夫やアプローチがなされているようです。

日本は正直、海外に比べて遅れているし、今のままではいけないと感じています。ですが、それは誰しもが思っていること。今までも日本や学校現場では様々な主権者教育はされてきてはいますが、国民が、いや若い世代がもっと選挙に行きたい！行かねばならないと心を揺さぶられるような取り組みを皆でしていかねばならないと今回を通じて思いました。しかし、投票率や国民の興味関心をあげるためのアイデアは簡単には浮かびません。

でも、それでいいと思います。私は今回、少なくともわけもんの主張で原稿を考えるまで、こんなにも真剣に選挙について考えることはありませんでした。ですが、今回深く深く考えた事によって、選挙は必ずいかなきゃ！と思えるようになった自分がいます。小さな事から大きな取り組みまで、地道に考え、皆でとりくめるような社会作りこそが、国民や県民の主権者意識を上げることに繋がることになると思います。

自分は昨年学校で行われた生徒会役員選挙に立候補しました。今後も、小さな事から始めてみようと思います。